

2月18日

第4回探究的な学習の在り方に関する研究推進地域連絡協議会（県）

県主催の3回目の会議もオンラインで行われました。

今年度最後の回では、奈須正裕先生の講演と実践報告シンポジウムそして、中間報告会でした。

奈須先生の講演会では、私たち指導者が「ショック」を受けたところです。

奈須先生の講演より・・・

「子どもの求めによる単元になっていますか？」

先生は、「解決させたい！学ばせたい！」と思ひすぎ。

子どもたちがしたいことをしたいときに、問題が生まれる。

ハードルを上げれば、勝手に問題が出てくるもの。子どもたちは、

よりよいくらし、よりよい生活をするために、学習している。

経験単元になっていけば、自動的に探究になっていく。



子どもではなく、  
私たちが

ショック！！

その経験単元をイメージしやすくするために、「デューイの実験学校」や

今から36年前の「40人のタイヤのり」「私たちの段ボール迷路」などの例を挙げられました。

これは、校内研修で全員で視聴するとイメージの共有ができるなと思いました。

そして、単元構成について、今、総合的な学習の時間や生活科に求められるのは、経験単元！であることを再確認。私たちは、ルーブリックをはじめ、指導者の手業の研究に力を入れすぎていたのかもしれない。

教材単元	経験単元
国語や算数などの教科	総合的な学習の時間 生活科
内容→活動	活動→内容
先生が準備した活動を子どもにやらせるのが難しいから、導入の工夫が必要。	この活動の先にある価値ある内容：学びに行くところが、難しい
子どもにさせる活動が決まっているので、鋭角的な教材研究	子どものする活動が多様で、なにが飛び出すか分からない。子どもに一人ひとりがどんな反応をするか、予測しながら教材研究する。 拡散型の教材研究（ウェビング）が必要

実践報告シンポジウム	中間報告会
東広島市立福富中学校区 尾道市立長江中学校区 の2中学校区の実践報告がありました。どちらの学校も教材研究をよくされているところが魅力でした。	県内の指定を受けた中学校区の代表者が、今年度の取組を15分間のパワーポイントにまとめ、5グループに分かれて、中間報告として発表しました。 みなさんが、どんな取組をされているのか、情報収集するために、三校の先生方で割り振って、後日交流することとしました。

みなさんが、頭をひねりながら、取り組んでいらっしゃるがよく伝わってきた一日になりました。